



PDF



15 . ヨシノボリ (ハゼ科)



日本全国の河川や湖沼に最もポピュラーに分布するハゼの一種である。川へいったら、まず手の平大の石をのけてみるといい。何個かのけていくと必ずといっていいほど5~8cmほどのヨシノボリがかくれているのがわかる。石をのけられたヨシノボリは、しばらくはじっとして思案にしているが、やがて近くの石の下へもぐりこむ。

産卵期は4~9月で、雄がなわばりをもった石の下に雌をひき入れ、卵を産ませる。雄は卵を保護し、ふ化するまで見守る。川でふ化した**仔魚**は海か湖に流され、そこで浮遊生活を行い、その後底生生活に入る。餌は生息場所によって違いがあるが、底にいる水生昆虫などを食う。**湖沼陸封**的なものから、川と海とを往復する**両側回遊**的なものまである。

各地で盛んに漁獲され、大量にとれる有用な魚である。

つくだ煮や**あめ煮**にされる。

北海道、本州、四国、九州、琉球列島に分布する。

神戸市内でもヨシノボリは各地に広く分布している。明石川をはじめ淡河川、志染川などの主な川や池にも広く生息する。

武庫川では10cmをこえるヨシノボリが石の下から顔を出すことがある。なんとかつかまえてやろうとするが、うまくかわされてしまう。

池にすむものは**矮小化**(わいしょうか)したものが多く4~6cm程度のものをよく見る。

各地によく放流されている。



明石川

(次ページへ続く)

Rhinogobius brunneus (TEMMINCK et SCHLEGEL)



デジタル化 神戸の自然シリーズ 20 神戸の淡水魚 メニューへ